

## 研究機関名：下関市立市民病院

### 研究課題名：

心不全患者における入院関連嚥下機能障害（Hospital-Associated Dysphagia）の予測因子の検討

研究期間：2026年5月1日～2026年12月13日

### 対象材料：

☐ 病理材料（対象臓器名： ）

☐ 生検材料（対象臓器名： ）

☐ 血液材料

☐ 遊離細胞

■ その他（ 診療録 ）

上記材料の採取期間：2023年3月～ 2026年5月

**意義：**近年、心不全患者の高齢化に伴い、嚥下障害の有病率は増加しており、本邦では9.4～36.2%と報告されている。嚥下障害は在院日数の延長、自宅退院率の低下、日常生活動作（Activities of Daily Living：ADL）や身体機能の低下、入院関連能力低下（Hospital-Associated Disability：HAD）の発生、更には院内死亡や生命予後の悪化と関連することが報告されており、心不全患者における重要な合併症の一つである。しかし、これまでの研究の多くは、臨床的に診断される嚥下障害を対象としており、明確な嚥下障害に至る前の軽微な嚥下機能低下については十分に検討されていない。実臨床では、嚥下障害と診断される以前の段階から入院前と比較して嚥下機能が低下している症例も少なくないと考えられ、この段階でリスクを把握し介入することは、重症化予防の観点から重要である。近年、入院に伴う機能低下を捉える概念として Hospital-Associated Disability（HAD）が注目されているが、HADはADLや身体機能のみならず、嚥下機能にも生じ得る可能性がある。我々はこれまで、Food Intake LEVEL Scale（FILS）が入院前から退院時にかけて1段階以上低下した状態を入院関連嚥下機能障害（Hospital-Associated Dysphagia：HAD）と定義し、開胸心臓手術患者において全死亡および全死亡・心不全再入院の複合イベントの独立した予測因子であることを報告した。また、心不全患者においても Hospital-Associated Dysphagia は生命予後の独立した規定因子であることを明らかにしており、早期予防・早期介入が求められる重要な病態である。しかし、Hospital-Associated Dysphagia の予測因子についての検討は明らかにされていない。

**目的：**心不全患者における Hospital-Associated Dysphagia の予測因子を明らかにすること。

**方法：**当院の患者データベースおよび電子カルテより後方視的に通常診療の範囲内で得られる患者基本情報や医学的情報、治療経過、リハビリテーション経過、退院時の身体機能評価、退院時の内服薬等を診療録より収集する。

### 個人情報の取り扱い：

患者様の個人情報は、個人を特定できる情報とは切り離したうえで使用する。また、研究成果を理学療法関連学会で発表するが、患者様個人を特定できる個人情報は含まない。

### 問い合わせ・苦情等の窓口：

〒750-8520

山口県下関市向洋町一丁目13番1号

下関市立市民病院 リハビリテーション部 月城 一志

TEL 083-231-4111 FAX 083-224-3838